

5. 高齢者向け施設の選び方

5-1 高齢者施設に対する考え方は？

近年 総人口のうち75歳以上の人が増える割合が増え、高齢者の独居、高齢者夫婦のみの世帯も増加しています。そして、多くの高齢者向け施設が造られています。今まで、施設(老人ホーム)というと家族に迷惑を掛けず人生を全うしたいという「姥捨て山」的なイメージが有りましたが、今では余生を楽しく過ごすための住処というイメージも有ります。

高齢者施設への入居を希望する方は施設内容を理解したうえで、自分の条件を整理し、そして、その条件に優先順位を付けて自分に合った施設を選ぶ事が大切です。

- 条件例
- ・入居費用を抑えた施設
 - ・月額費用を抑えた施設
 - ・入居費も月額費用も抑えた施設
 - ・医療施設の充実した施設
 - ・リハビリの専門性が高い施設
 - ・ホテルでの生活のような環境の施設
 - ・毎日の生活を楽しむための条件が揃っている施設
 - ・近親者に近い、交通の便が良い等施設
 - ・ペットと同居が可能な施設
 - ・その他

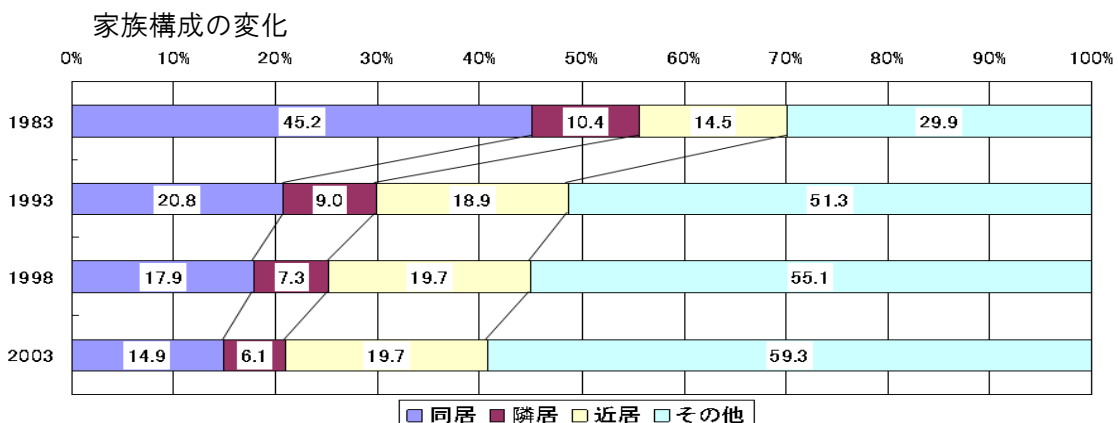
以上のように、条件もいろいろあります。

多くの方は複数の希望条件があり、また選ぶ施設の種類も多くその中から希望の施設を選ぶのが難しい事と思います。

この度「高齢者向け施設の選び方」を作製してみましたので参考になれば幸いです。

*選ぶ為の条件シート・見学入居体験シートを作成しましたのでご自分に合った内容に直してお使いください。

*参考にした資料はHOME'S介護HP、宝島社の楽しく暮らす高齢者ホーム選び、週間朝日MOOK、厚生労働省政策レポート（高齢者の住まい）です。



(出典)国土交通省住宅局「平成15年住宅需要実態調査」

5-2 自分に合う施設とは？

人生最後の暮らしを大切にす為、自分の置かれている境遇を冷静に見つめかつ判断することが大切です。

1) 自分自身の条件の整理を行う・・・要望も含める

① 予算を決める

入居一時金＋月額費用（施設利用料、管理費、食費、水道光熱費）＋
その他の生活費（被服費、理美容、医療費、通信費、娯楽費）

*おむつ代等は月額費用に含まれない

② 施設の立地

交通の便、環境（自然、買い物、等）、自身の境遇を考慮する

③ 医療体制、看護体制（自分の身体の状態を考慮する）への要望

④ 施設（個室レベル、コミュニティー関係、リハビリ施設等）への要望

⑤ その他（自宅の処分、身元引く請け人、共同生活ができるか、運営会社の評判、娯楽・趣味に関する要望）

2) 整理した条件に優先順位を付ける

① 整理した条件を一覧表（別冊—1「条件シート」）にして配点を付け

② 下記4)の時点で採点を行う *条件の優先順位が高いものに配点を高くする

3) 施設の種類を決める

① 施設の種類（下記の表）を決めるには施設の内容（特徴）を把握して、自分の条件に照らし合わせ決める事が大切だと思います

*下記の表はHOME'S介護HPの抜粋の為、詳細はHPをご覧ください

・有料老人ホーム

民間機関	特徴	費用	介護レベル	認知症
介護付き 有料老人ホーム	自立型と介護型がある 介護度、サービス、費用の幅が有る	中～ 高	自立～ 重度	○
住宅型 有料老人ホーム	軽度の要介護までの対応（外部サービス） 要介護が重度になると退去の場合がある	中～ 高	自立～ 重度？	○？
健康型 有料老人ホーム	自立、要支援対応・楽しむ施設が充実 要介護が重度になると退去の場合がある	高	自立～ 軽度	×

・高齢者向け住宅

民間機関	特徴	費用	介護レベル	認知症
サービス付き 高齢者住宅	バリアフリー対応賃貸住宅・自立、軽度の要介護 対応・賃貸住宅より高齢者向け 要介護が重度になると退去の場合がある	中～ 高	自立～ 軽度	×
高齢者 専用賃貸住宅	サービス付き高齢者住宅に一本化（高費用） 都道府県に登録されている	中～ 高	自立～ 中度	△
高齢者向け 有料賃貸住宅	サービス付き高齢者住宅に一本化 自治体による助成金がある	中	自立～ 中度	△

シニア向け 分譲マンション	バリアフリー対応分譲マンション 楽しむ施設がある 資産になる	高	自立～ 重度	△
------------------	-----------------------------------	---	-----------	---

・地域密着型施設

民間機関	特徴	費用	介護レベル	認知症
グループホーム	認知症の方少人数での共同生活 専門スタッフが居る 医療ケアが無いのが多い 要介護が重度になると退去の場合がある	低	低～ 中度	◎

・軽費老人ホーム

介護保険施設	特徴	費用	介護レベル	認知症
軽費老人ホーム	自治体の助成がある施設の為比較的安価 要介護が重度になると退去の場合がある A型（食事有り）B型（食事無し）	低～ 中	自立～ 軽度	△
ケアハウス 軽量老人ホームC型	自治体の助成がある施設の為比較的安価 家庭環境等による理由での入居も有る	低～ 中	自立～ 重度	○

・介護保険施設

介護保険施設	特徴	費用	介護レベル	認知症
特別養護 老人ホーム	自治体の助成がある施設の為安価 終の棲家的存在 入居待機期間が長い	低	中～ 重度	◎
介護老人 保険施設	看護、介護、回復期のリハビリ 入居期間3ヶ月 自治体の助成がある	低～ 中	中～ 重度	◎
介護療養型 保険施設	比較的重度の要介護対応 終身制では無い 入居難易度が高い	低～ 中	中～ 重度	◎

② 施設種類の決め方の例

決める条件は一般的には自立出来るか介護が必要か、予算はどの位までか適切か
認知症・終の棲家等が基本です。

その上で本人が特に重要と思われる条件を加味して決める事が大切です

例一 1 自立出来る・予算有り・資産形成は不要の場合は介護付き老人ホーム（自立型）

かサービス付き高齢者住宅等

例一 2 例一 1 で要介護の場合は介護付き老人ホーム（介護型）等

例一 3 例一 1 で資産形成をしたい場合はシニア向け分譲マンション等

例一 4 自立出来る・予算余り無し・75歳以上・共同生活が可能でプライバシーの重要度が
低い場合はケアハウス（自立型）等

例一 5 例一 4 の要介護・予算有りはケアハウス（介護型）

例一 6 要介護・予算無しの場合は特別養護老人ホーム等

以上は条件の一部の例です

入居を希望する方は様々な条件が有りますので全ての例を表記出来ません

参考資料を読まれる事をお薦めいたします

4) 資料を収集、分析する・・・候補は複数とする

- ① 施設の資料は各都道府県の HP もしくは民間の紹介業者の HP にて調べる
- ② 取り寄せた資料を基に「条件シート」に採点し複数の候補にしぼる
(資料請求に重要事項説明書が重要)

5) 見学と体験入居を行う・・・見学は近親者等複数人数にて行く

- ① 管理責任者に合い内容の説明を聞く事と職員の仕事振りを確認する
- ② 入居者の体験談を聞く・・・サービスと施設の雰囲気等
- ③ 周辺環境のチェックと施設の建築設備をチェックする
- ④ ①～③の結果を別冊ー4「チェックシート」に記入、採点を行う

6) 契約

- ① 「チェックシート」を素に家族、縁者、身元引受人と一緒に内容確認を行い施設を決め、契約をする

*入居後90日以内なら短期介助の特例を受けられる

5-3 補足資料

補足資料は別冊 1・2と具体例があります

1) 自分自身の条件整理を行う

①-1 予算の範囲の入居金

看護費用が入っているか確認してください。

- ・一時金方式・・・当初まとまった費用が必要だが月額料金が抑えられ長期に居住の場合割安となります。

退去時は居住期間により払い戻しがあります（契約前に確認が必要）。

- ・月払い方式・・・当初は費用が抑えられるが月額料金が高くなります。

①-2 予算の範囲の月額料金

- ・何年入居するのかが不明ですので予備費が必要です。
- ・月額費用は施設の種類により内容が変わるので注意が必要です。

例 月額料金にふくまれている費用

介護付老人ホーム（看護型）： 居住費、管理費、水道光熱費、食費、生活支援サービス、
介護保険利用自己負担額

①-3 予算のうち実費生活費は入居者の現在の境遇とこれからの境遇 両方を考なければ成りませんので非常に難しいと思います。特に看護が将来必要か不必要かにより条件が変わります。

*介護にかかる費用

介護平均年数は約 5 年間

介護サービスへの支出金は介護保険 1 割自己負担分として平均 13000 円/月（要支援 1～要介護 5 までの平均）要介護 5 の場合平均 24000 円/月

*必要な実費生活費の例（看護付き老人ホームの場合）

医療費（保険外）、薬代、通信費、規定回数以上の入浴介助、おむつ代、リース代、被服費、協力医療機関以外の通院付き添い介助、定期健康診断費、通院時の駐車料金、受診予約代行、買い物外出時の付き添い、居室の清掃、理美容代、その他はレクリエーションの参加費、サークル活動等

*生活支援サービス費とは安否確認、生活相談サービス等

②-1 施設の立地は入居者と親族の境遇を考慮して決める事が大切です、また自立できるか要看護かにより条件が大きく変わります。

③-1 医療体制では協力医療機関の概要と診療科目（自分の持病）と協力内容の確認が必要です。

③-2 看護体制では看護体制は職員 1 名に対し入居者 3 人が最低と規定されています、また職員に介護資格者が多いほど安心できます。

④-1 施設での収容人数は 70 名程度が適当だと言われています。

*サービス付き高齢者向け住宅の登録基準では、部屋の大きさは原則 25 平米以上（共同利用施設が充実している場合 18㎡以上）、各居住部分に台所、水洗便所、洗面所、浴室、収納設備を備える事になっています

④-2 リハビリ施設の充実度の確認も必要です。

2) 整理した条件に優先順位を付ける

3) 施設の種類を決める

*集めた資料により施設の分類が異なっているので宝島社の分類を採用しました

- ①—1 看護付きと住宅型との違いは都道府県から「特定施設入居者生活介護」の事業者指定を受けているかどうか、受けてないと介護付きを表示出来ません

*看護力：認知症がある場合は特定施設の指定を受けた施設をお薦めします

4) 資料を収集、分析する

- ①—1 資料収集；民間施設のHPの多くは契約した施設のみが掲載されていますが各種の条件が掲載され参考になります・・・条件検索が可能

- ①—2 資料収集：民間施設HP検索例 HOME'S介護・日本老人ホーム紹介・施設運営会社等多数有ります

- ②—1 公共のHPでは条件が掲載されてない事もあります、その場合は選んだ候補のHPを検索し条件を調べる必要があります

- ③—1 重要説明書：入居契約に関する書類で役所に定期的に提出書類です
(内容は 事業所主体、施設概要、利用料、サービス内容、介護を行う場所、医療、入居状況、職員体制、入居、退去条件、情報開示)

5) 見学と入居体験を行う

- ⑤—1 最低3泊4日は体験入居が必要です（5日間位が望ましい）

- ⑤—2 職員が交代するので多数の人と接する事が出来、入居者との話も良く聞け、食事等も色々な経験が出来ます

6) 契約

- ①—1 身元引受人：

施設側との連絡窓口となる立場の人、賃貸住宅の契約時の身元保証人と同じです。施設を選ぶ時点で誰がなるのか決め、参加してもらう事をお薦めします
該当者がいない場合は、NPOや一般社団法人が代行を行う事が出来ます

*成年後見人は連帯保証や遺体引き取り、遺品整理等担う立場でないので認められない場合がありますので施設に確認してください

以上